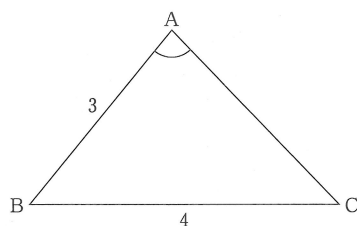


第2問 図形と計量, データの分析

[1]


 $\sin^2 \angle CAB + \cos^2 \angle CAB = 1$ より,

$$\sin \angle CAB = \sqrt{1 - \cos^2 \angle CAB}$$

$$= \sqrt{1 - \left(\frac{1}{9}\right)^2}$$

$$= \frac{\boxed{4} \sqrt{\boxed{5}}}{\boxed{9}}$$

である.

余弦定理

$$BC^2 = CA^2 + AB^2 - 2CA \cdot AB \cos \angle CAB$$

より, x は 2 次方程式

$$4^2 = x^2 + 3^2 - 2x \cdot 3 \cdot \frac{1}{9}$$

すなわち

$$x^2 - \frac{\boxed{2}}{\boxed{3}}x - 7 = 0$$

を満たす.

これより,

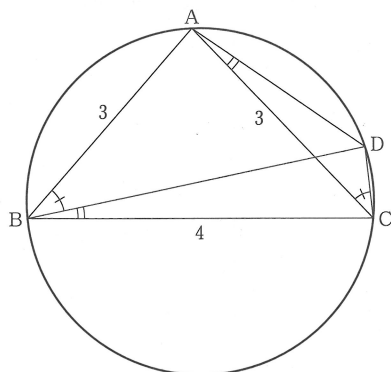
$$3x^2 - 2x - 21 = 0$$

$$(3x+7)(x-3) = 0$$

となるから, $x > 0$ より,

$$CA = x = \boxed{3}$$

である.



$$\left\{ \begin{array}{l} 0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ \text{ のとき,} \\ \sin \theta = \sqrt{1 - \cos^2 \theta}. \end{array} \right.$$

$$\leftarrow \cos \angle CAB = \frac{1}{9}.$$

余弦定理

$$a^2 = b^2 + c^2 - 2bc \cos A.$$

円周角の定理より,

$$\angle ACD = \angle ABD, \quad \angle CAD = \angle CBD$$

であり,

$$\sin \angle ABD : \sin \angle CBD = 3 : 1$$

より,

$$\frac{\sin \angle ABD}{\sin \angle CBD} = 3$$

である.

さらに, $\triangle ACD$ に正弦定理を用いると,

$$\frac{DA}{\sin \angle ACD} = \frac{CD}{\sin \angle CAD}$$

であるから,

$$\begin{aligned} DA &= \frac{\sin \angle ACD}{\sin \angle CAD} CD \\ &= \frac{\sin \angle ABD}{\sin \angle CBD} CD \\ &= \boxed{3} CD \end{aligned}$$

である.

$\triangle ABC$ に余弦定理を用いると,

$$\begin{aligned} \cos \angle ABC &= \frac{BC^2 + AB^2 - CA^2}{2BC \cdot AB} \\ &= \frac{4^2 + 3^2 - 3^2}{2 \cdot 4 \cdot 3} \\ &= \frac{2}{3} \end{aligned}$$

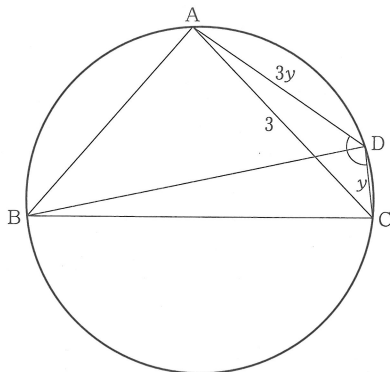
であり, 四角形 $ABCD$ は円に内接し,

$$\angle ABC + \angle ADC = 180^\circ$$

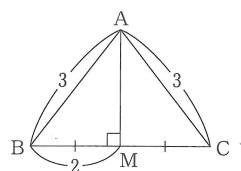
が成り立つから,

$$\begin{aligned} \cos \angle ADC &= \cos(180^\circ - \angle ABC) \\ &= -\cos \angle ABC \\ &= -\frac{2}{3} \end{aligned}$$

である.



... ①

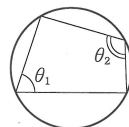


$\triangle ABC$ は $AB = AC$ の二等辺三角形より, 辺 BC の中点を M とすると, $AM \perp BC$ であるから,

$$\begin{aligned} \cos \angle ABC &= \cos \angle ABM \\ &= \frac{BM}{AB} \\ &= \frac{2}{3} \end{aligned}$$

と求めてもよい.

円に内接する四角形の性質



$$\theta_1 + \theta_2 = 180^\circ.$$

$$\cos(180^\circ - \theta) = -\cos \theta.$$

CD=y とおくと、①より DA=3y であり、△ACD に余弦定理を用いると、

$$CA^2 = CD^2 + DA^2 - 2CD \cdot DA \cos \angle ADC$$

$$3^2 = y^2 + (3y)^2 - 2y \cdot 3y \cdot \left(-\frac{2}{3}\right)$$

$$y^2 = \frac{9}{14}$$

となり、y>0 より、

$$CD = y = \frac{3}{\sqrt{14}} = \frac{3\sqrt{14}}{14}$$

である。

[2]

(1) 30 人全員に対する平均値は、

$$\frac{0.3 \times 2 + 0.6 \times 8 + 1.0 \times 12 + 1.4 \times 5 + 2.0 \times 3}{30}$$

$$= \frac{30.4}{30}$$

$$= 1.0133 \dots$$

より、1 . 0 である。

(2) 箱ひげ図より、第3四分位数は1.2であり、階級Dに属する。よって、ソ に当てはまるものは ㉓ である。

(3) 修正前の30人の検査値を $x_1, x_2, \dots, x_{30}$ とし、平均値を $\bar{x}$ とすると、

$$\bar{x} = \frac{x_1 + x_2 + \dots + x_{30}}{30}$$

であり、修正後の30人の平均値を $\bar{x}'$ とすると、

$$\bar{x}' = \frac{(x_1 - 0.1) + (x_2 - 0.1) + \dots + (x_{30} - 0.1)}{30}$$

$$= \frac{x_1 + x_2 + \dots + x_{30}}{30} - \frac{0.1 \times 30}{30}$$

$$= \bar{x} - 0.1$$

であるから、㉔は正しい。

階級Eの修正後の度数は2であり、階級Eにおける平均値は、

$$\frac{(2.1 - 0.1) + (2.3 - 0.1)}{2} = 2.1 > m_e$$

となるから、平均値は修正前より増加する。

← DA=3CD.

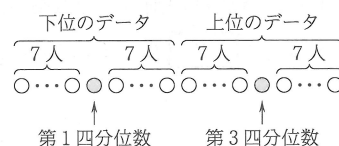
← 分子の値は30人の検査値の総和であり、それを30で割ったものが求める平均値である。

各階級における平均値の総和を5で割って、

$$\frac{0.3 + 0.6 + 1.0 + 1.4 + 2.0}{5} = 1.06$$

としてはいけない。

← 30人に関するデータであるから、データを値の小さい方から順に並べたとき、第3四分位数は23番目の生徒の検査値である。検査値は0.1刻みで測定されており、箱ひげ図から読み取れる第3四分位数1.2は正確な値である。



← 修正前の検査値1.6は、修正後1.5となり、階級Dに属する。

← $m_e = 2.0$.

よって、①は正しくない。

修正前の偏差

$$x_k - \bar{x} \quad (k=1, 2, \dots, 30)$$

と修正後の偏差

$$\begin{aligned}(x_k - 0.1) - \bar{x}' &= (x_k - 0.1) - (\bar{x} - 0.1) \\ &= x_k - \bar{x} \quad (k=1, 2, \dots, 30)\end{aligned}$$

は同じであるから、分散は変化しない。

よって、②は正しい。

修正前の第1四分位数は、箱ひげ図より0.7であり、修正後は0.6となる。よって、修正前、修正後ともに第1四分位数は階級Bに属し、③は正しい。

修正前の第3四分位数は、箱ひげ図より1.2であり、修正後は1.1となる。したがって、第3四分位数は修正前は階級D、修正後は階級Cに属するから、④は正しくない。

以上より、タ、チに当てはまるものは①、

④である。

[3]

各階級の視力変化が0.4以上であった生徒の割合は、

階級A ... 0,

階級B ... $\frac{2}{8} = 0.25$,

階級C ... $\frac{3+1}{12} = 0.33\dots$,

階級D ... $\frac{1+1}{5} = 0.4$,

階級E ... $\frac{1}{3} = 0.33\dots$

であり、階級Dの割合が最も高い。

よって、ツに当てはまるものは③である。

分散は、偏差の平方の平均値

$$\frac{(x_1 - \bar{x})^2 + (x_2 - \bar{x})^2 + \dots + (x_{30} - \bar{x})^2}{30}$$

である。

第1四分位数0.7は正確な値である。